

新宮山彦ぐるーぷ第2014回

行仙宿く持経宿間の交差点検巡視と

行仙宿で榎木に椎茸菌打ち・カマド煙突の防火対策など

◇実施日：2019年04月07日（日） 晴

◇参加者：順峯班；梶野照雄、上村洋司・和美、山川自知、

山口泰宏、高階鈴子。

逆峯班；沖崎吉信、豊嶋 寛、山川治雄、濱野兼吉、

大江加予子、生熊千満子。

行仙宿班；川島 功、生熊敏男、児嶋道夫、

乾 克己前泊）。計16名。

順峯班（行仙宿く持経宿）

前泊していた乾さんの出迎えを受けて行仙宿に到着。コーヒーをご馳走になり、行仙宿作業班と一緒に写真を撮ってからスタートした。まだ風は少し強く吹いているが、強い日差しで暑くなってきた。



行仙宿班と



登りだしの急坂



大台ヶ原も雪は無い

行仙岳山頂までは何も障害は無く、30分で到着。鉄塔が撤去されていた無線中継所の屋上に新しい構造物が取り付けられていた。無線機で逆峯班を呼んでみたが、応答は無かった。行仙岳北側の階段は、霜柱によって浮き上がった箇所が複数あった。



行仙岳北の壊れた階段



最初の倒木処理



倒木処理が続く



怒田ノ宿跡を過ぎて数分、最初の倒木があった。地上から2.

5 m位のところで折れていて、先端は西側の雑木に引っかかって止まっていた。折れている場所は手が届かないので、引っかかっている雑木を切って、先端を地上に降ろしてから切断して道外に排除した。

北に50分で二つ目の倒木が道を塞いでいた。根元直径が40 cmほどの大木だが、道を塞いでいるのは先端の枝の多い部分で、太さも20 cm弱だった。枝が多く、葛のようなツル性植物が多量に巻き付いていたので切除には時間を要し、10分強の時間がかかった。世界遺産の石柱から10分ほど、もうすぐ倶利伽羅岳というところで再び倒木があった。折れて西側に倒れているが、折れた部分が木に挟まって頭上の高さにあった、高くて切りづらいので挟んでいる木を切って地上高を下げてから切除した。この倒木は直径20 cmを少し越えるものだった。



引っかかった倒木多数

全員で（倶利伽羅岳）

ここから少しだけ登って倶利伽羅岳に到着、逆峯班が待っていてくれた。12名全員そろって昼食、食後には女性陣からチョコレートやお菓子の差し入れもあり、ゆっくり休憩できた。逆峯班から「切り残した倒木が2本ある」と伝えられ、山川さんからチ

チェーンソーの燃料とオイルの補給を受けた。昼食を終え、逆峯班を見送ってから出発する。10分弱で直径20 cm越えの斜木を切除、その15分後に30 cm近い斜木があった。根元は逆峯班によって切断されていた。ここでチェーンソーの歯が挟まったようなので、慎重に切断。約5分で作業を終えた。



逆峯班が残した倒木の処理



平治宿に到着

持経宿で

約35分下って平治宿に到着、小屋前で休憩する。行仙宿からここまでチェーンソーを使ったのは9回、上村さんは刈込鋸で飛び出した小枝を切除、山口さんは鋸で小木を処理しながらの行程だった。

平治宿からは、いつも通り50分で持経宿に到着、上村さんの運転で村役場まで戻った。本日処理した倒木は大小合わせて12本（作業時間の合計は約45分）、大きな木の全てが西側に倒れこんでいた。冬の季節風は通常西または北西からなので西側に倒れることは考えにくい。本日処理した倒木は、昨秋の台風によるものと思われる。

行動タイム

行仙宿09:40→10:10行仙岳→10:31怒田ノ宿跡→12:15俱利伽羅岳12:50→13:56平治宿14:10→15:00持経宿15:10→16:00村役場

(記：梶野)

逆峯班(持経宿→行仙宿)

いよいよ4月となった。一日に新元号「令和」が発表され、それを祝うかのように桜は満開である。また巷では選挙で賑やかだ。テレビニュースで東大阪市から府議選に出馬した塩川正十郎先生のお孫さん塩川憲史氏(29歳)が初当選したとの報道があった。心よりお祝いを申し上げたい。

大型連休の登山シーズンを前に、南奥駈道の点検・整備を行っている。今回は行仙宿→持経宿間、来週は持経宿→太古ノ辻・前鬼間を実行して点検を終える予定である。

◎今回は16名の参加申し出があつて大人数である。

◎シイタケの菌打ちは今の時期にやる必要があつて、川島さんがその作業を行う。

◎児嶋さんは行仙宿小屋カマド煙突防火対策などの工事を行う。

◎乾さんは行仙宿に前泊のうえ参加。

以上のことから、行仙宿作業班、行仙宿から持経宿への順峯班、

持経宿から行仙宿への逆峯班の三班に分けて実施した。

当日午前8時前に、下北山村役場駐車場に15名が集合、山口泰宏、高階鈴子のお二人も久々の参加を頂いた。組別、作業内容などを説明し、午前8時に二組に分かれてスタート地点へ向かう。我々逆峯班6人は、沖崎車一台で池郷林道を通過する。途中、一カ所のみアスファルト舗装上の小石を除去するために停車したが、順調に9時頃に持経宿に着く。今回は連休の缶ビール2箱と薪3束を持ち込んだ。

9時10分に行仙宿へ向け出発する。この区間は昨秋の台風以後、持経宿から転法輪岳の南側下迄と行仙宿から俱利伽羅岳手前まで点検整備済みである。

村吉さんが整備され、足運びが楽になった個所に皆さん感謝して通過する。先日梶野君が釈迦ヶ岳へ笹刈りに出向いた時は、相当の積雪があつて、今日も尾根に少々残っているのではないかと心配したが全く雪は無かった。

平治宿手前から薪材となる枝を拾いながら小屋に着く。

豊嶋、大江、生熊の3名は薪集め、チェーンソー持参の山川さんが薪に小切り、濱野君は小屋の水槽整備、沖崎がドラム缶再設置などの作業を行う。30分強小屋にいたか、終了後転法輪岳へ。山頂から順峯班への無線では、俱利伽羅岳手前で倒木処理中とのこと、俱利伽羅岳で合流し昼食を告げる。

前回下見した場所を過ぎると、ある、やはり有る！出てきた倒木は俱利伽羅岳迄に7〜8カ所、10本位処理した。

檜の大木(直径30cm位)2本の他、広げた枝で完全に道を塞いでいる雑木など、チェーンソー担当の山川さんは大奮闘である。檜の処理ではチェーンソーの刃が挟まれ四苦八苦、一部を切ったがもう一方は梶野君に任せることになった。登山者(縦走者)はこの通過は大変だったと思うが、切除してすっきりした。

12時過ぎに俱利伽羅岳山頂に着く。程なく順峯班も到着し昼食とした。聞くと、この先で10本近く処理したとのこと。



林道三差路に標識



雑木を切除



逆峯班・俱利迦羅岳で

山頂に40分位居て、我々逆峯班は行仙に向かう。さあこれからは作業が無い、久々のこのコースを楽しもう。一時間と少々で怒田ノ宿跡迄やってきて一服する。

行仙宿作業班には、怒田ノ宿跡と行仙岳山頂に靡看板の設置をお願いしていたが見当たらない。宿内作業に手間取りここまで来られなかったか、と思っていたら上の方で「コンコン」と音が聞こえた。今、行仙岳で杭打ちをやっている、こちらへ降りてくるかと思うし、それにしても時間が遅いと思ったりしながら行仙岳山頂へ歩を進めた。途中の段差補修の川島さんが一人でやっている。聞けば「シイタケの菌打や防火対策工事が思った以上に時間を要し、俺以外の三人はまだ作業中なので一人でやってきた」とのこと。また、行仙岳・靡看板を一本だけ持ってきたが、ネジの不具合で設置できなかったとのこと。

全員が捲き道經由で行仙宿に14時30分ジャストに着いた。児嶋・生熊・乾の3人は、ストーブの火傷柵の固定作業などをされていた。

15時過ぎに行仙宿を後にし、16時過ぎに役場駐車場に再集

合、次回行事の案内と連休中の小屋番をお願いして解散した。

行動タイム

役場駐車場 08:00→09:00 持経宿 09:10→10:05 平治宿 10:30→12:05 俱利迦羅岳 12:45→14:09 行仙岳捲き道分岐→14:30 行仙宿 15:05→16:05 村役場駐車場。 (記：沖崎)

行仙宿班(楢木に椎茸菌打ちとカマド煙突の防火対策など)

○作業内容

- ・楢木25本に椎茸菌打ち(コマ菌700個)と仮伏せ。
- ・カマド煙突の防火対策配管(壁抜き部に耐熱防火パライトをセメントで固めた四角部材嵌め込みと煙突接続配管)。
- ・ロケットマスヒーターストーブの火傷対策。
- ・行仙岳に靡看板設置と北側木製段差補修と要補修材調査。
- ・管理棟の毛布干し。
- ・宿内外点検と雨水槽の貯水栓止め(4槽)。

○荷揚げ品

- ・5ℓガソリン缶。 ・薪5束(沖崎氏寄贈)。

新宮組は、沖崎車(濱野・上村夫妻・大江同乗)・川島車(児嶋・生熊夫妻)で沖崎宅を6時45分に出発。新緑を迎える山々に山桜・熊野桜が開花し、あんな所にも桜が多く植生していると、眺めながら、集合場所の下北山村役場駐車場に7時45分着。

心臓病を治療養生されていた山口さんが、元気になられ久しぶりに参加して下さい。沖崎代表より作業班分けと作業内容の説明があり、行仙宿登山口へ川島・梶野・山川(トラ)車に分乗し、8時半前に到着。

防火対策の煙突配管部品と電気工具、椎茸菌打ちの電気ドリル、寒冷紗遮光ネット(生熊氏寄贈)、ガリリン缶・薪などをモノレール

ルに積み込む。第1ベンチ補修用の天板2枚(山川氏寄贈)は、荷揚げせず。



下北山村役場駐車場に集合・始令



モノレールに積み込み



4月2・3日頃には釈迦ヶ岳以南も冠雪したが、一昨日辺りから5月上旬並みの暖かさになり、ヒートテックの長袖シャツでは暑いと思われる半袖Tシャツを着て来たが、正解で暑くてモノレール終点からTシャツ姿で登る。
行仙宿作業班(3人)だけでは、荷揚げ出来なかったが、行仙宿から順峯班と一緒に登ったので一度に荷揚げ出来た。



M機終点から荷揚げ



第二ベンチにて



行者堂前に幟旗

行仙宿に9時15分過ぎに着くと、前泊の乾さんにより、管理棟の毛布干し、行者堂前に幟旗が立てられている。又、コーヒーも準備されており全員がコーヒーで小休止。宿内には、電源開発(株)橋本流通事業所より、2月吉日に荷揚げして下さった「飲料水3箱(一箱20.6本)、ガスカートリッジ5セット、缶パン2ケース」が置かれていた。何時も本当に有難うございます。
持経宿への点検巡視・順峯班6名を見送り、榎木への椎茸菌打ちには、生熊・川島が担当し、カマド煙突の防火対策配管は児嶋・乾さんが携わる事にする。

発電機を作動させ、20cm間隔に記した検尺に榎木(長さ1.1(1.2m)を添わせて、長さ20cm、横幅5(7cm)間隔に電気ドリルで椎茸菌専用のドリル刃(穴径9.2mm)で穴明けを行い、生熊さんがコマ菌をハンマーで打ち込みする。

榎木にドリル穴明け作業の方が早く、またコマ菌不足気味との事で榎木4本の穴明けを止めて、川島もコマ菌打ちをする。コマ菌が足りる事が判り、穴明けを一旦止めた榎木にも穴明けをして、榎木計25本に2時間を要してコマ菌打ちを終えると11時40分過ぎであった。



榎木に電気ドリルで穴明けと椎茸コマ菌打ち

カマド煙突の防火対策は、屋外に梯子を立掛けての作業や壁抜

きに四角の断熱材詰め込みや煙突の切断等電動工具を駆使しての作業であり、菌打ちを終えた頃には、作業が一段落するのとことから一緒に昼食。



カマド煙突の防火対策配管作業

昼食後、川島はカマド煙突作業がもう少しかかることから、生熊さんに菌打ち済櫓木の仮伏せする作業を任せて、木製カケヤ・スパナ・行仙岳靡看板を担ぎ、看板設置と行仙岳北側の木製段差補修と補修に要する栈木材の調査に行く。
行仙岳で看板を付けたまま木杭を叩くが、硬くて入らず看板を外すと設置ボルトが外れている。木杭のみ叩き打ち込みする。看板を持ち下ろすと、児嶋さんはスポット溶接が外れていたとの事。

山頂より段差の木杭を叩きながら下り、行仙岳巻き道分岐に荷をデポして怒田ノ宿へと下る。霜柱で浮いた木杭を叩き、抜けかけや斜めの木杭を抜いて打ち直しの補修を行う。
逆峯班の話し声が聞こえてきて、最下部の木製段差地点で14時頃に合流する。点検のため巻き道を一緒に通り、行仙宿に14時半に戻った。

煙突の防火対策、櫓木の仮伏せ、天日干し毛布取り込み、雨水槽の貯水栓止めの作業が終えており、ストーブの火傷防止対策として、ステンレスパイプを天板に浮かして取付けする作業が進行中である。コーヒード小休止する。

煙突の防火対策、櫓木の仮伏せ、天日干し毛布取り込み、雨水槽の貯水栓止めの作業が終えており、ストーブの火傷防止対策として、ステンレスパイプを天板に浮かして取付けする作業が進行中である。コーヒード小休止する。



菌打ち済櫓木仮伏せ



煙突防火対策完了



ストーブ火傷防止柵取付け



行仙岳・靡看板



巻き道分岐にて



行仙宿・コーヒータム



登山口に下山



下北山村役場Pで終礼



作業を終えて行仙宿から15時過ぎに下山して、登山口から乾・梶野(沖崎運転)・川島車に分乗し、16時過ぎに下北山村役場駐車場に着くと、順峯班が少し早く着いたとのこと。終礼を行い解散する。

本日は、一日を通して穏やかな暖かい一日であった。

行動タイム

新宮 6:45→7:45 下北山村役場 P 8:00→8:25 行仙宿登山口 8:35
→9:20 行仙宿 9:40→作業→11:50 昼食 12:30→作業・行仙宿
12:40→13:10 行仙岳 13:25→行仙岳北面段差補修→14:00 逆峯
班合流→14:10 捲き道分岐→14:30 行仙宿 15:00→15:35 行仙宿
登山口 15:45→16:05 下北山村役場 P 16:15→17:15 新宮。

(記：川島)